

大谷派に多い「系襲姓制度」

安樂寺の「解散要」で表白を奉読する永井道文氏
(3月13日)

過疎や少子高齢化などによる檀信徒の減少で存続が難しくなった寺院の統廃合の必要性が指摘されるようになって久しい。ただ、実際に着手するのは容易なことではない。近年、廃寺と寺院合併に踏み切った真宗大谷派の寺院2カ寺を取材した。

(池田圭)

寺院統廃合



難しい。また、安樂寺が毎年本山に納める7万円の負担金は我々が分担してきたが、若い世代の理解を得るのが難くなっている。我々が健康なうちに何とかしたかった」と話す。

たたりが怖い?

安樂寺の法人解散の議決は2020年11月6日付。黒柳氏は「これに前後した手続きのため何度も安樂寺が所属する岡崎市教区の教務所(同県岡崎市)などに赴き、こんなに手間がかかるのかと思つた」と指摘した。

大谷派の寺院規則は解散時の残余財産の帰属先

を住職家の姓を名乗る者

とする「系襲姓制度」を

採用する寺院が多く、安

楽寺も該当する。「名古屋市在住の先代住職の90代の息子さんと何とか連絡がつき、遺産继承の放

棄に同意してもらえたのも大きかった。これがなければ話が進まなかつた。しかし、今後は「そもそもない」と振り返った。

ただし法律上、安樂寺

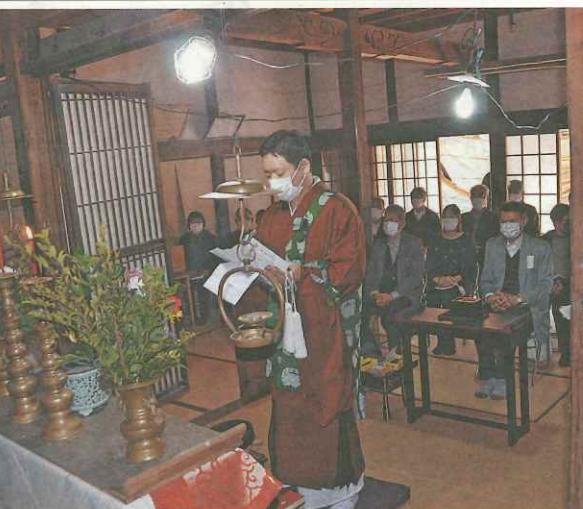
はまだ清算中の扱いだ。

伽藍の除却や、残余財産

の境内地を集会所がある

隣接地に帰属させるため

の行政との交渉が残る。



意見「対等に聞く」

■寺院合併

石川県七尾市の常福寺は2012年、寺から東に1キロほど離れた西佛寺と合併した。

07年の能登半島地震で大きく損壊した両寺の再建が大きなきっかけ。常福寺の畠山和徳・前住職と1998年に死去した

と単独での再建が困難だった事情もあり、同寺の合併を機に山号を「金鶏

西佛寺の当時の住職が親しく、住職の死後、後継者の確保に苦労していた西佛寺の住職代務者を和徳前住職が務めるなど関係が深かつたことが背景にある。

西佛寺の門徒は約40戸と相手と和徳前住職が相談して合併する方針を固めたという。

合併の協議と常福寺の再建は並行する形で進められ、西佛寺は本堂や庫裡を除却して境内を墓地と参拝接待所がある「東廟所」として整備。また

真宗寺院に最も求められるのは聞法道場としての機能だ。淨住職は「合併前よりも聞法の機会を増やしたい」という考えを基本に寺務に取り組んでいたと強調した。

(2面につづく)

■寺院解散
愛知県豊田市野林町の安樂寺は3月13日に「解散法要」を営んだ。長年、寺を護持してきた地元住民約30人が参列する中、住職代務者の永井道温・楽圓寺(同市田振町)住職の長男・道文氏(43)が『諸行無常』の理のとおり、安樂寺は世の移ろいによって一つの役割を終え……』と表現を読み上げた。

安樂寺の創建時期は不明だが、1813年製の喚鐘や38年製の親鸞聖人御影が残る。教員との兼職で寺を護持していた先代住職が1966年に死去した後、住職は不在で、3軒あつた門徒はいざれも家が途絶えた。66年以降、近所の楽圓寺の住職が住職代務者を務め、安樂寺は同じ集落の13戸が3年交代で役員(責任役員と総代)を務

「東廟所」として整備された旧西佛寺の境内。入り口に由来を示した石碑を設置し、西佛寺の旧門徒に配慮している



木彫仏像・莊嚴仏具
株式会社巧芸社

本社 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-26-3
電話(03)3971-0128(代)
京都店 〒606-8345 京都市左京区東門前町520-8
電話(075)761-0398

山から「西佛山」に改め、12年10月に営んだ常福寺の本堂再建落慶法事をもって「西佛山常福寺」として再出発した。15年に繼職した畠山淨(48)によれば、両寺の門徒数には約2倍の差があるが、合併に際して座談を行う「お寺カフェ」なども企画し、新たな法縁を広げている。

真宗寺院に最も求めら

きょうの紙面から

門徒と一緒に

- ▶ 兼務任期延長は継続審議 東福寺派宗議会 = 2面
- ▶ 日蓮宗大本山妙顕寺 降誕800年、開創700年祝う = 3面
- ▶ 〈ひと〉橋村公英・東大寺別當 = 5面
- ▶ 〈論〉津城寛文氏「『死後』についての近代知」 = 7面
- ▶ 曹洞宗雲龍寺 足利正尊39世住職晋山特集 = 12面

◆〈中外図書室〉は休みます

「サポートする人必要」

宗派「聞き取りシート」で支援

(一面からつづく)

安樂寺の黒柳氏は「若院さん（道文氏）が親身になって私たちの話を聞くまでしててくれた。本当に感謝している」と喜ぶ。

黒柳さんたちの気持ちはよく分かるが、本当に解散でいいのかという迷い、最後は『解散法要』があり、半年ほど「何かいい方法がないか」と調べたこともある。そもそも僧侶として寺院の解体には強い心理的抵抗がある、「全く楽しくない」と打ち明けた。

道文氏は平日は宗派の

これまで護持されてきた。企画調整局次長として京都の宗務所に勤務している。「私の場合はそういう立場なので、困ったことがあれば担当部署など見を言えるかどうか」と身近な職員に相談できたが、多くの人はそうではない。サポートしてくれる人が必要」と指摘する。

道文氏によれば、まだ具体的実績はないが、このやりとりを起点に門徒の所属先変更の仲介や「解散法要」、解散寺院の記録を残すアルバムを作りなど当該寺院の実情や要望に応じた具体的な支援を実行する考えだ。

過去5年間の大谷派の解散寺院数は年間平均20

は一定の体力（経済的基本盤）がないと合併は難しいだろう」とも話した。

用がかった。「実際に「こちら側から聞きたいことを質問していくのでではなく、相手の言葉に虚心坦懐に耳を傾ける」姿勢で臨むよう職員に指示し、相談者の気持ちに寄り添うプロセスを最重要にしている。

道文氏によれば、まだ具体的実績はないが、このやりとりを起点に門徒の所属先変更の仲介や「解散法要」、解散寺院の記録を残すアルバムを作りなど当該寺院の実情や要望に応じた具体的な支援を実行する考えだ。